

オオミズスマシ *Dineutus orientalis* Modeer

【選定理由】

1980年代までは、名古屋市内を含む各地で生息が確認され(佐藤, 1990)、県内でも普通に生息する種と考えられていた。2010年代では県内の生息地は限られており、種の存続への圧迫が強まっている。

【形態】

体長 7~12 mm。体の側縁は黄色に縁どられ、上翅側縁後方に顕著な棘状突起があり、先端は突出する。本州には本種と見間違えるような近似種はいない。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市、豊田市、美浜町、犬山市、佐久島から記録がある(佐藤, 1990)。かつては普通種であったため、詳細な分布調査はされていないが、県内全体に分布していたと考えられる。

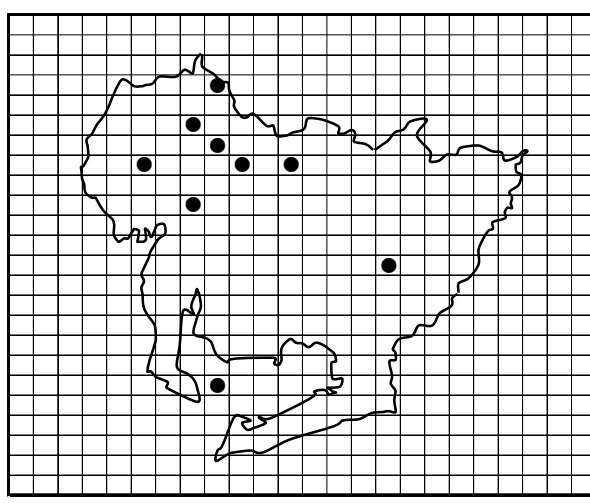
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

【世界の分布】

日本、サハリン、シベリア、朝鮮半島、中国、ベトナム。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

小川、水田、池など。かつては各地に極く普通の種(佐藤, 1977)とされていた。成虫、幼虫とも同一水域で生活する。成虫は水面生活に高度に適応し、水面を素早く旋回しながら泳ぎ、水面に落下した昆虫などを捕食する。

【現在の生息状況／減少の要因】

正確な現状把握ができていないが、2000年以降の生息情報は限られ、実際には現状ランクより絶滅の危険性が増している可能性がある。1990年代以降に急激に減少したことから、水面を旋回して泳ぐ性質から、オオクチバス等の外来魚による捕食圧を強く受けた可能性が高い。また水田にも生息する種であることから、このころより普及したネオニコチノイド系農薬の影響を受けた可能性もある。

【保全上の留意点】

現在の生息地の環境を保全するとともに、新産地の発見に努める。オオクチバス、ブルーギル、コイなどの外来魚の駆除を積極的に行うとともに、ネオニコチノイド系農薬の影響についても留意し、本種が減少したと考えられる要因を排除する必要がある。

【引用文献】

佐藤正孝, 1977. 日本産ミズスマシ科概説. 甲虫ニュース, (37) - (39).
佐藤正孝, 1990. 愛知県の甲虫類 (I). 愛知県の昆虫, (上): 204-231. 愛知県.

【関連文献】

上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編, 1985. 原色日本甲虫図鑑(II), 514pp. 保育社.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)